

陸側遮水壁閉合 第一段階フェーズ2の凍結開始について

2016年6月6日

東京電力ホールディングス株式会社

The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters.

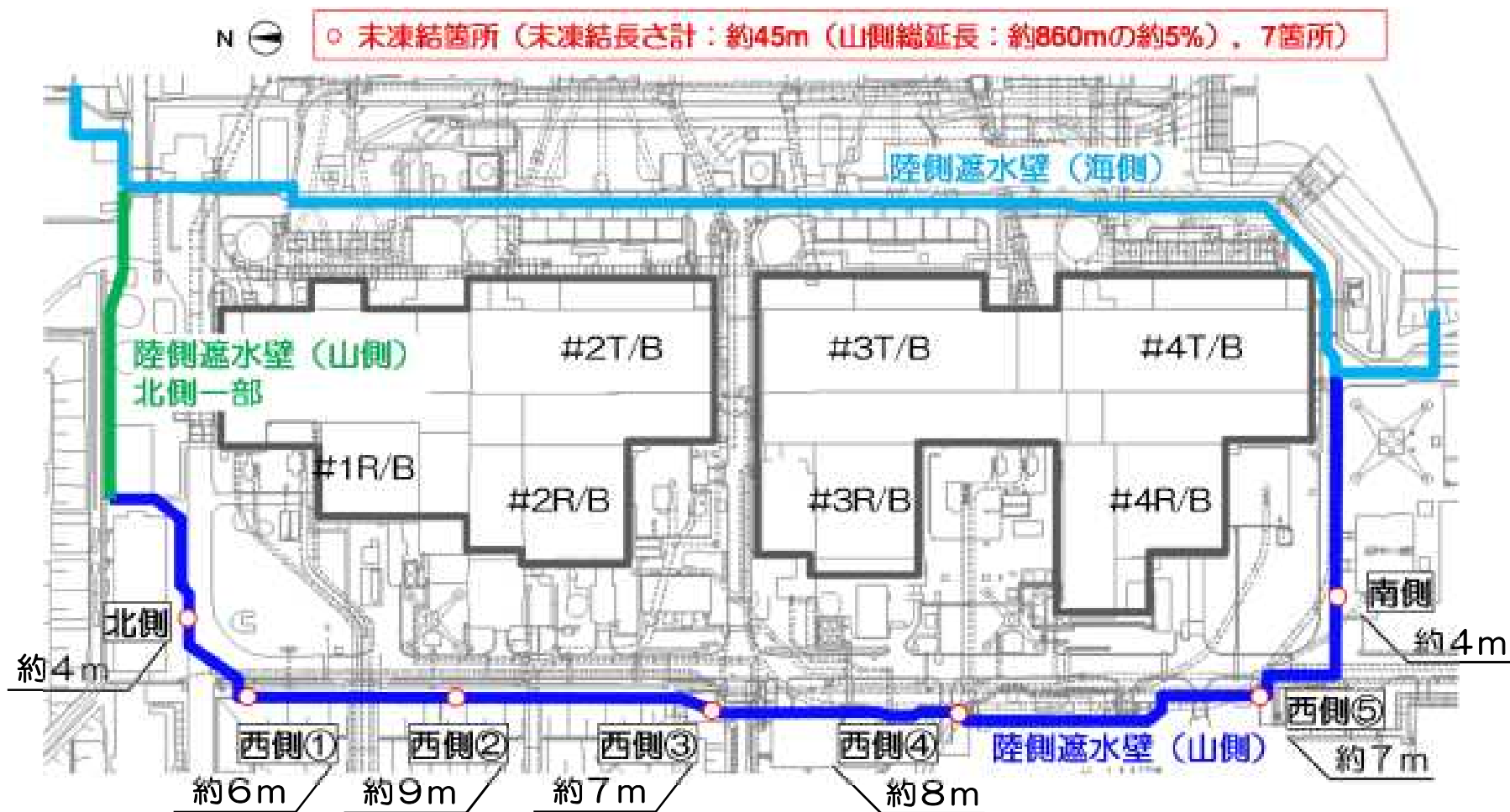
陸側遮水壁閉合 第一段階フェーズ2への移行について

- 以下を確認したため、陸側遮水壁閉合の第一段階フェーズ2へ移行し、本日6月6日10時より、陸側遮水壁山側（7箇所の非凍結部を除く）の凍結を開始する。
 - フェーズ1の凍結運転開始以降の陸側遮水壁（海側）を境界とした内外の水位差（中粒砂岩層）および水頭差（互層部、細粒・粗粒砂岩）の推移について分析・評価したところ、水位差・水頭差の発生を確認した。
 - また、フェーズ1の地下水収支の評価を踏まえて、フェーズ2完了時の地下水収支について想定した結果、サブドレンが稼働状態を維持でき、水位管理に問題が無いことを確認した。

- 併せて、フェーズ1で凍結進展が遅れていた箇所に対しても、補助工法を実施していく。

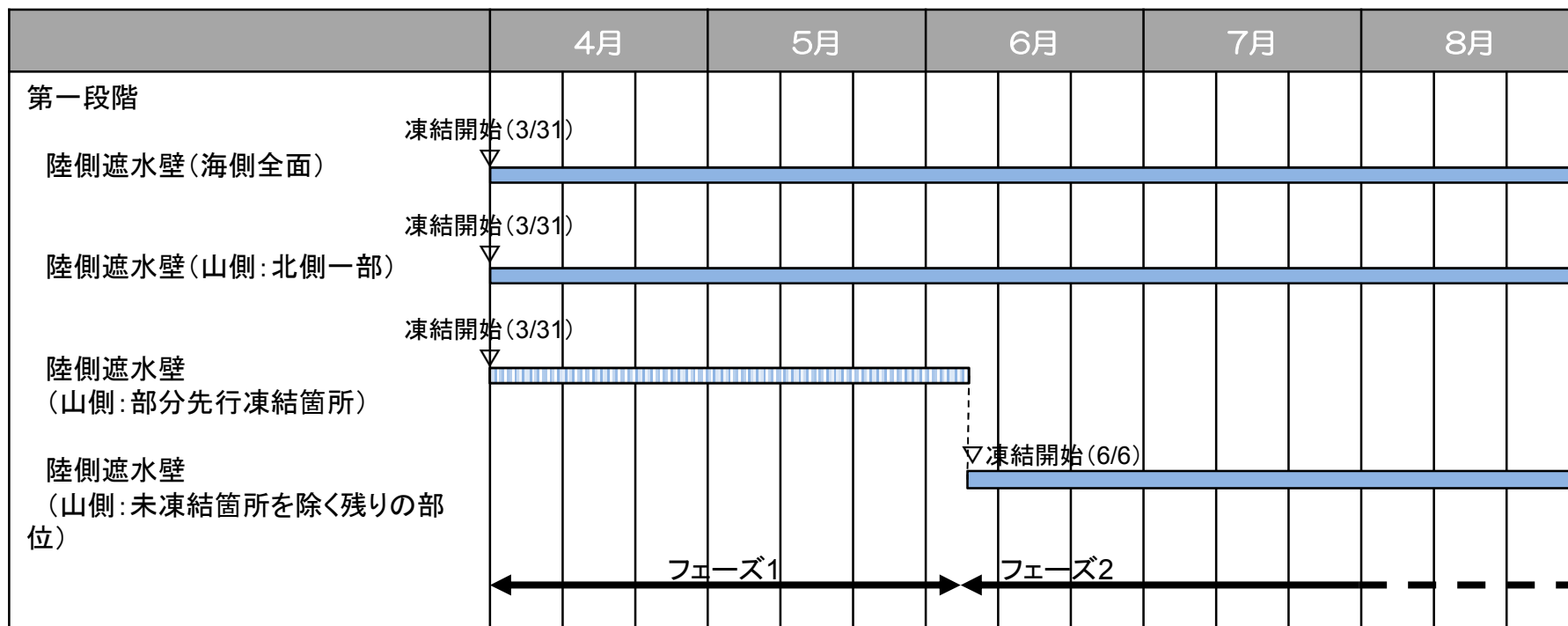
第一段階フェーズ2 凍結範囲

- 海側全面 + 北側一部 + 山側部分先行凍結箇所に引き続き、第一段階フェーズ2では未凍結箇所7箇所を除いた陸側遮水壁（山側）の凍結を実施する。



※ 図中の数値は各未凍結箇所の未凍結長さ

陸側遮水壁 第一段階の実施工程



【参考】フェーズ2移行後の確認項目

■ 第一段階フェーズ2の確認項目（実施計画より抜粋）

- 第一段階を通じて、陸側遮水壁の効果発現状況を遮水壁内外の水位差およびサブドレン・ウェルポイント・地下水ドレンの汲み上げ量等の変化により確認する。
- 陸側遮水壁（山側）の閉合率と地下水遮断率の関係の不確実性を考慮して、第一段階を通じて、全体的な地下水収支を見ていくことで、「地下水遮断率」を総合的に評価し、過大となっていないことを確認していく。また、第一段階においてはサブドレンが稼働していることを前提としていることから、サブドレンの稼働状態や周辺の観測井等の水位変動から地下水挙動を確認していく。第一段階の途中において、下記のいずれかの状態に対して、十分余裕を持って凍結（冷却ラインの供給）の停止を行うことで、それ以上第一段階の閉合を進めないこととする。その後、地下水の状況や凍結状態を踏まえ、以降の対応を検討する。
 - 「地下水遮断率が80%」以上であると評価した場合
 - サブドレンの広範囲な停止※が発生した場合

※：「サブドレンの広範囲な停止」に至る前においても、地下水位が低下することにより局所的にサブドレン水位が低下し、サブドレンポンプ停止水位（L 値）を連続的に下回った状態となった場合、周辺の地下水位変動状況等を確認し、注水井への注水等の必要な対策を行う。（水質・機器メンテナンス等の理由により人為的に停止しているサブドレンは除く。）